

2次避難所で災害関連死防止

被災者に旅館やホテル提供

木名瀬議員 大規模災害により、電気や水道等の生活に必要なインフラ施設に甚大な被害が発生している中で、避難生活が長期化する中、災害関連死を招く大きな要因の一つと考えられる。

能登半島地震に見舞われた石川県では、生活環境の改善や災害関連死の防止のため、県内外の旅館やホテルなどを2次避難所として確保するほか、配慮が必要な高齢者や妊婦の方などを対象に、2次避難所へ移動するまでの一時的な受け入れ先として、金沢市内などに1・5次避難所を開設するなどの対応を行った。

大規模災害時には、被災地以外への避難は大変有効だが、災害で救われた命を守るためにも、早い段階で1・5次、2次避難の必要性を判断することが求められる。

そこで、能登半島地震にあっては、大規模災害発生時の2次避難への対応について、どのように取り組んでいるのか、知事 災害発生時に、電気・水道などインフラの復旧の遅れにより避難の長期化が見込まれる場合、良好な避難環境を確保するため、広域的な避難も検討する必要があります。

このため県では、旅館、ホテルの事業者の組合と協定を締結し、高齢者や障害者など配慮を必要とする被災者に、宿泊施設を避難所として提供することとしています。

さらに、能登半島地震において実績を有する民間事業者と、広域的な避難所の開設・運営や避難者の輸送等に関し、連携・協力して行う協定を新たに締結したところであり、いわゆる2次避難の迅速な判断や円滑な実施により、良好な避難環境を確保してまいります。

2月定例県議会一般質問



県の施策について質問する木名瀬訓光県議

安全・安心なまちづくりに力を注いでいる木名瀬訓光県議（野田市、2期）は2月定例県議会で登壇し、大規模災害発生への対応について質問しました。災害関連死を防ぐために、2次避難所の準備が必要なのではないかと質問に、熊谷知事は旅館やホテルの事業者組合と協定を結んでいて、高齢者や障害者の被災者に宿泊施設として提供する用意があると答弁しました。木名瀬県議の質疑と知事らの答弁を紹介します。

消防団員の技術力維持向上を

木名瀬議員

消防団は消化を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民指導などの役割を担うなど、地域住民から頼られる存在である。

近年は、災害が大規模化し、頻発化しており、毎年のように豪雨災害が発生し、救助活動や排水作業などにおいても消防団が活躍している。

発生が危惧されている「首都直下型地震」などの大規模地震発生時には、消防団の特性を活かした迅速な出動による消火活動や常備消防との連携による延焼阻止活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられる。

しかしながら、近年、訓練機会の減少などもあり、消化を始めとする消防団活動について、団員の技術力の低下が懸念されている。

そこで、消防団員の技術力の維持向上に向けた県の取組はどうか。

県においては、被災者の気持ちに寄り添い、災害から救われた命を守るため、必要な支援が迅速かつ着実に行われるよう取組を進めてもらいたい。

木名瀬くにみつ・PROFILE

略歴

- 昭和41年 野田市に生まれる
- 昭和57年 野田市立北部中学校卒業
- 昭和60年 県立野田北高等学校卒業
- 平成4年 国土館大学工学部卒業
- 平成6年 木名瀬商事(株) 代表取締役就任
- 平成31年 千葉県議会議員当選(2期)

現職

- 千葉県議会 総務防災常任委員会委員長
- 千葉県青少年相談員連絡協議会顧問

●県政や野田市のまちづくりについて、気軽にご相談ください

木名瀬くにみつ 県議事務所

〒278-0042 野田市吉春836
TEL.04-7125-1950
FAX.04-7124-5399

国道16号の交通渋滞緩和

千葉北西連絡道路に期待

木名瀬議員 国道16号は首都圏の環状道路であるとともに、県北西地域を縦断する唯一の幹線道路として、交通量が非常に多く、特に野田市駅入り口交差点から柏市の大島田交差点付近では、慢性的な交通渋滞が発生している。

千葉北西連絡道路は、国道16号の交通円滑化のほか地域経済の活性化や災害対応に資するものであり、早期の具体化が必要。昨年2月に、国、県、沿線市で構成する地元検討会が設立され、計画段階評価におけるルート、構造の検討が進められているが、現在の取り組み状況が気になる。

県土整備部長 千葉北西連絡道路は、国道16号などの交通円滑化や、県内外との交流・連携を強化し、企業の集積、産業の活性化を図るとともに、災害時における多重性・代替性を確保する重要な道路です。

あり、今後、地域の皆様の意見把握を行うオープンハウスを実施するとともに、企業ヒアリングなども予定しております。

連携し、計画の早期具体化に向け、積極的に取り組んでまいります。

要望 木名瀬議員 引き続き、地元の機運が高まるよう情報発信に努め

るとともに、国や関係市と連携しつつ、県として積極的な役割を果たし、

野田橋周辺を4車線化

木名瀬議員 野田橋周辺の交通の円滑化に向けた取組状況はどうか。

県土整備部長 東葛飾地域と埼玉県東部地域を結ぶ野田橋や、その周辺では、交通が集中し、朝夕を中心に激しい渋滞が発生している状況です。

これまで、交通課題の把握や今後の周辺道路の整備状況を踏まえた交通量推計などを行うとともに、野田橋を含め、4車線化が必要な区間や短期対策の検討を進めてまいりました。

計画の具体化を強力に進めていただくよう要望する。

ン延伸などの短期対策の検討を進めるとともに、4車線化につきましては、県道越谷野田線の「野田橋交差点」から「野田市中野台交差点」までの概略設計を実施しているところです。

は、毎年野田橋の4車線化による交通の円滑化について千葉県へ要望しており、今年は穴澤副知事に要望書を渡すことができました。

都市計画道今上木野崎線バイパス整備進む

木名瀬議員 都市計画道路今上木野崎線の進捗状況はどうか。

県土整備部長 今上木野崎線では、東武野田線梅郷駅周辺の交通渋滞の緩和を図るため、野田市道山崎野田線から国道16号までの0・7キロメートル区間で、東武野田線との立体交差を含むバイパス整備を進めています。

県道我孫子関宿線野田市木間ヶ瀬地先児童の安全へ拡幅

木名瀬議員 県道我孫子関宿線野田市木間ヶ瀬地先の現道拡幅事業の進捗状況はどうか。

県土整備部長 当該路線の野田市木間ヶ瀬地先では、幅員が狭く歩道もないことから、円滑な交通と通学児童等の安全を確保するため、2・5キロメートルの現道拡幅を進めているところであります。

今後とも、残る用地の取得を進め、事業の推進に努めてまいります。

これまで、木間ヶ瀬小学校から我孫子市側の0・9キロメートルが完成し、現在、これに続く木間ヶ瀬

引き続き、地元の皆様の御理解と御協力をいただきながら、残る用地の

要望 木名瀬議員 早期に工事を着手していただくよう要望する。



県執行部の答弁に対して要望をする木名瀬県議

青少年相談員確保へ

活動の魅力発信

木名瀬議員 青少年相談員の近年の委嘱状況はどうか。また、青少年相談員の確保に向け、県はどのような取り組みをしているのか。

環境生活部長 県では、3年を任期として、青少年相談員を配置しており、近年の委嘱者数と定数に対する充足率は、平成28年度が4258人で99・9%、令和元年度が4042人で

97・0%、令和4年度が3827人で94・3%と、定数の確保が難しくなってきています。

相談員は、地域の青少年健全育成のリーダー的存在として、スポーツ大会や野外活動等を企画・運営し、昨年度は延べ13万人を超える青少年が参加しており、多様な世代や地域の人と交流する実体験を通じて、青少年の豊かな人間関係や社会生活の形成などにつなげています。

こうした相談員の魅力を発信するため、市町村と連携しながら、SNSやチラシ等で制度や活動の周知・啓

発を図っているところであり、引き続き、青少年相談員の確保に努めてまいります。

要望 木名瀬議員 青少年相談員は、地域における青少年健全育成の担い手として、貴重な体験の機会を作る重要な役割を担っていることから、県において、引き続き、市町村と連携し、青少年相談員の確保と支援の充実に努めていただくよう要望する。